

## 消防職員向けハラスメントの実態調査結果【概要】

### 第1 調査方法

- ・調査期間：平成29年3月1日～20日
- ・調査対象：消防職員（男性3,200名、女性800名）
- ・回答数：2,951件（回答率73.8%）男性2,391名、女性548名、性別未回答12名

### 第2 調査結果

#### （1）パワー・ハラスメント

- 最近1年間にパワハラを受けた 男性17.5%、女性12.8%
- 受けたパワハラの類型（男性・複数回答）
  - ・必要以上に長時間にわたり繰り返し叱られる等（精神的な攻撃） 58.0%
  - ・挨拶しない、無視する、食事に誘ってもらえない等（人間関係からの切り離し） 23.3%
- 10年間の発生の傾向（男性）
  - ・かなり減った、やや減った 59.5%
  - ・変わらなかった 33.2%
  - ・かなり増えた、やや増えた 7.3%

<参考>

24年度厚生労働省委託事業調査結果  
過去3年間のパワハラ経験率  
(民間従業員) 25.3%

#### （2）セクシュアル・ハラスメント

- 最近1年間にセクハラを受けた 男性2.2%、女性28.0%
- 受けたセクハラの種類（女性・複数回答）
  - ・性的な言葉を言われる、容姿について話題にされる、私的な交際について聞かれる 71.7%
  - ・過度なスキンシップなど身体を触られる 36.8%
- 10年間の発生の傾向（女性）
  - ・かなり減った、やや減った 48.9%
  - ・変わらなかった 44.1%
  - ・かなり増えた、やや増えた 7.0%

<参考>28年3月1日発表

独立行政法人労働政策研究・研修機構  
実態調査結果

女性のセクハラ経験率(民間従業員等) 28.7%

#### （3）妊娠・出産、育児休業・介護休業等の取得に関するハラスメント

- 受けたことがある 男性2.9%、女性9.8%

#### （4）ハラスメント防止対策として望むこと（主な回答）

- ハラスメントを受けた場合、もしくは見たり聞いたりした場合に、本部や第三者機関（市役所等）に個人から直接通報できるシステムの整備
- 秘密が保持された、気軽に相談できる窓口の設置
- 処分の厳格化
- 講師を招いての講義など、職員の意識改革、教育の実施
- 風通しがよく、制度が利用しやすいような職場環境づくり
- 女性職員の増加、女性職員が働きやすい環境の改善

#### （5）自分がハラスメントを受けたとして、将来的に周囲にどう接するか（主な回答）

- 自分がされて嫌なことは他の人にはしない。負の連鎖を断ち切る。
- 信頼関係を構築する。厳しい指導だけではなくメリハリが必要である。
- 上司も部下にもコミュニケーションの重要性を再確認させる。